

文化と風景とグリーンインフラ

道路や水路といった物理的なインフラストラクチャーは、人類の生存になくてはならない社会の基盤であり下部構造です。古来人類は自然の制約を克服するためのインフラ整備を続けてきました。とくに十八世紀後半の産業革命以降、科学技術の発展によりインフラ整備が加速し、生産と消費が飛躍的に増大し、世界人口の爆発的な増加が結果として現在に至っています。いっぽうその恩恵とは裏腹に、いま、こうした人類の活動により自然の一定の枠組みが大きく変わり（人新世）、他の生物の生息環境が大きく制限され（種の絶滅）、気候が著しく変動し（地球温暖化）、旱魃、山火事、豪雨災害等が多発するようになったと、ひろく知られるようになりました（災害激甚化）。

いま、グリーンインフラ、つまり自然の枠組みと働きを抑え込むのではなく、それに賢く適応するインフラが注目されています。これは下部構造とはいえすでに、人類の自然に対する態度と認識の転換を含んでいます。そこには人類が自然を制御することの限界をふまえた、自然そのものがもつ循環・自己制御のはたらきへの洞察と信頼があるはずです。こうしてグリーンインフラは個性的な相貌を備え、人々の心に響く風景としてはたらくようになりうるのだといえるでしょう。

たとえばグリーンインフラとしての伝統的な庭園には、生物多様性や水循環の健全化への貢献という意義があります。またそれは持続する文化としてのはたらきをもちます。「単なる必要を超えて何かを作り出す」とする精神（スタインベック）である人間にとって、グリーンインフラはたんに機械的・無機的で、社会・経済的な近代文化を支えるインフラの、機能的な代替施設というだけでなく、むしろそれ自体が持続・成熟する文化的施設としての、大きな可能性をもっているのではないのでしょうか。

今年度前期の景観セミナー／レクチャーシリーズは、多自然川づくりと流域治水、伝統的技法を生かした雨庭のデザイン、そして戸建て住宅の雨水管理に取り組んでこられた方々から話題提供をしていただきます。小さきさまざまなグリーンインフラの事例をふまえて、文化・風景としてのグリーンインフラのあり方をみなさんとともに考えたいと思います。

どうぞお気軽にご参加ください。

景観研究センター所長 山下三平



photo by Sampo WAKAMURA



photo by Ueyakato Landscape



photo by Tatsuro SATO

テーマ：文化と風景とグリーンインフラ

■6月3日(金) 18:00-19:30

流域治水とグリーンインフラー多自然川づくりを超えて

佐藤 辰郎（九州産業大学 建築都市工学部 都市デザイン工学科 准教授）

<https://ksu-keikanseminar2022f1.peatix.com/>

■6月17日(金) 18:00-19:30

京の庭づくりと雨庭の可能性

和田 貴子（植彌加藤造園株式会社 自然文化サービス部 マネージャー）

<https://ksu-keikanseminar2022f2.peatix.com/>

■7月15日(金) 18:00-19:30

流域治水を実現する雨水活用住宅の未来

渡辺 亮一（福岡大学 工学部 社会デザイン工学科 流域システム研究室 教授）

<https://ksu-keikanseminar2022f3.peatix.com/>

会場：対面 九州産業大学 23号館 4階 景観研究センター 景観ライブラリー
Online Zoom ミーティング *各回とも Peatix にてお申し込みください

参加費：無料

九州産業大学景観研究センター
景観セミナー／レクチャーシリーズ
2022 前期